

時代の転換期に想う

五條仁徳

三井E&S造船株式会社
執行役員 営業・特命事項担当



世界最初の産業革命は、18世紀半ばからイギリスで始まったとされております。その中でも特筆されるのは、紡績業・製鉄業における技術革新、更には蒸気機関の発明による動力源の刷新でしょうか。産業革命は70年にも長期に及ぶ、世界初の工業革命でしたが、産業革命以前と以後において社会の姿は一変致しました。工業比率が高まると共に都市化が進み、家内制手工業から工場制手工業に代わり、機械化された大規模工場における生産が始まっていきました。

時は流れて約200有余年。1990年代から2000年代にかけて、第三次産業革命と呼ばれる時代に突入します。通信インフラの劇的な改善を伴い、90年代の後半から2000年に掛けてパソコンや携帯電話が爆発的に普及し始めたのはこの頃です。一家に一台の固定電話は携帯電話にとって変わり、パソコンが身近なものとなり、公衆電話は姿を消すなど、我々の生活環境は大きく様変わりしました。職場における環境、作業効率が劇的に変化したことも、我々自身で体感しているところです。オフィスには一人一台のパソコン、連絡事項はファックスではなくEmail経由。物事を調べるのは辞書・辞典ではなく、インターネット検索でたちどころに判る、便利な世の中になったものです。「ワープロ」「ポケベル」といった単語に郷愁を覚えるのは私だけではないと思いますが、これらはもはや見かけることもありません。

そして、時は今、2020年代です。既に第四次産業革命の時代に入っているという説もあるようです。

近年のAI、IoT、フィンテック、3Dプリンターに代表される技術革新、シェアリングエコノミーの普

及などは、第三次産業革命と同様に、現代社会に劇的な変化を与えております。中でもAI技術の登場により、従来人間によって行われていた作業の補助／代替、オートメーション化が可能となり、子供の頃に漫画、映画等で見ていた近未来の世界が我々の目の前で具現化されつつあります。

当たり前のように受け入れてしまいがちですが、今我々の生きているこの時代は間違いなく歴史上の一大転換期にあります。

一方で、現在の産業革命はややもすると情報通信にハイライトされがちですが、物作り業の果たすべき使命・役割は引き続き大きなものがあると思っております。「AI、自動化技術」×「物作り」=更に新しい技術の“普及”“実用化”となるかもしれない。それは社会そのものに変革・発展をもたらす一大エポックメイキングなことに繋がるかもしれない…。

本紙でも取り上げられておりますが、建設現場におけるi-Constructionの推進も、その一例だと思えます。弊社においても、国土交通省殿のご支援を頂きながら世界初の大型フェリーによる自動離着棧の実証実験を行いました。成熟産業といわれて久しい造船業界ではありますが、産業革命の中、官民一体となり次世代に向け着々と歩みを進めていることを実感しております。

イギリスにて勃興した第一次産業革命から、グローバル化する現在の産業革命に思いを馳せつつ、その真っ只中に身を投じている一企業人として、どのようなことが出来るのか日々思案を重ねているところです。それら思案を具現化することにより、作業船業界に貢献し変革の一翼を担いたいと願っております。